



Contents - 主なもくじ -

## 特集 SLが走る町

IFJ 通信 .....	8
「食」と「農」のまちづくりを推進 .....	10
山の宝でもう一杯 .....	11
9月のイベント情報 .....	12
グラントワ情報 .....	21
けいじばん .....	22

特集-----  
**SLが走る町**

SLマメ知識

**SLって何の略?**

日本では、蒸気機関で動く機関車の意味をもつ「Steam Locomotive」の頭文字を取ってSL（エスエル）と呼ばれます。明治時代には、蒸気で動く船（蒸気船）もあり、機関車は陸の上を走るので「陸蒸気（おかじょうき）」と呼ばれ区別されていたこともありました。

**復活に様々な問題**

SLが姿を消した背景には、新型車輛の登場の他にも、煙によるすすや火の粉による山火事などの問題もありました。技術の発達により現在はありませんが、当時は、集煙装置を取り付けるなど、公害防止対策が行われました。様々な問題を抱えながらも最後にはSLの復活を願う沿線の方々理解と協力により運行再開が実現したのです。



# 75周年を迎えたC57形蒸気機関車

## 貴婦人 その姿は、多くの人の心をつかむ

### 日本の成長を支えた乗り物

18世紀のイギリスの技術者ジェームズ・ワットが開発した「蒸気機関」は同国の産業革命を支える動力機関として広く用いられ、その中で人やモノを運ぶ輸送機関「蒸気機関車」として発展・拡大をしました。

諸説ある中、日本で最初に蒸気機関車が走ったのはあの黒船で有名なペリー提督が来日した際に持ち込んだ大きさ2m50cm程度の模型の蒸気機関車が最初だと言われています。その後、蒸気機関車の優れた動力性能や当時のヨーロッパ諸国のような近代国家の仲間入りを目標としていた明治政府によりその象徴の一つとして、19世紀後半から日本全国に広がり、人々の生活を支えていきました。

当時、日本を走っていた蒸気機関車のほとんどが外国製（おもにイギリス）の車両でした。しかし、全国に蒸気機関が普及するに従い、日本の技術者達が独自の改良を行いながら、技術を習得、大正時代に初めて国産の蒸気機関車が誕生することになります。現在、JR山口線の新山

### SL誘致、そして復活

JR山口線からSLの姿が消えしばらく経ったのち、当時の国鉄総裁である高木文雄氏が「SLの運行を復活させたい」という旨の発言に端を発し、日本全国で復活に向けた活動が活発化、全国から復活を希望する団体が国鉄本社を訪れるといった誘致活動が行われるようになりました。

山口線でも、当時の山口市を中心とした沿線沿いの自治体や商工会・観光協会などから結成

口―津和野間を走るC57形蒸気機関車・通称「貴婦人」も昭和12年に製造され、今年で75周年を迎えた国産の蒸気機関車となっています。

### 国鉄によるSL廃止

明治から大正、昭和と日本の成長を支えてきた蒸気機関車でしたが、より効率の良いディーゼル車輛や車輛の電化の導入、当時の国鉄の方針により旧式となった蒸気機関車は次々に廃止されました。

昭和48年に山口線を運行していたD51形車輛・通称デゴイチ号の運行廃止が決定し、同年9月30日には、「さよなら」運転が行われ、多くの人に見送られ運行を終えることとなりました。



9月30日の最終運転の際には、津和野駅に約千人の人が訪れたと、当時の広報つわので伝えていきます

された「山口線SL誘致期成同盟会」が結成され、復活へ向けた活動が行われるようになりま

す。その活動は、国鉄本社・運輸省（いずれも当時）をはじめとする関係各所への陳情活動、さらには島根・山口の両県知事も協力の要請を行うなど、多岐にわたった活動でした。

SLの復活を目指す全国各地のライバルの活動がますます熱を帯びる中、当時の関係者の粘り強い誘致活動の結果、数多くある候補地の中から、山口線が選ばれ、昭和54年5月に現在の愛称でもある「やまぐち」号が命名され、同年8月1日から復活することになりました。

SL復活を伝える当時の広報つわの



もうすぐ見られるSLの雄姿



今では当たり前と思われるSLの運行も当時の関係者の並々ならぬ努力の結果であることを忘れてはいけません。

## 実は2種類あるSLの車輛



C57「貴婦人」  
山口線を走るSLの車輛が、実は2種類あることを知っていましたか。「貴婦人」の愛称で親しまれている車輛はC57形と呼ばれ、バランスの取れた車輛デザインは、蒸気機関車の傑作機とも言われています。そのC57形を一回り小ぶりの車輛が「ポニー」の愛称で親しまれているC56号機です。違うのは車輛の大きさだけでなく、貴婦人が甲高い汽笛であるのに対して、「ポニー」のそれは力強く低い音が特徴です。その他、実際に車輛をみて2つの車輛の違いを見つけてみるのもSLの楽しみかたかもしれません。



今年は9月29日～10月21日の期間限定!  
いつもは見られない **重連運転**



通常のSL運行は、1機の機関車が客車5両を引っ張ります。しかし、期間限定ですが山口線では、2機の機関車をつなげて運行する「重連運転」を見ることができます。貴婦人の後ろにポニーが接続され2機の機関車をもって行われるこの運行形態では、通常の運行に比べて力強く走る姿を見ることができます。

また、2機がそれぞれ汽笛を鳴らす場面もあり、まるでお互いの車輛が会話しているかのような姿をみることもできるものこの運行形態の魅力です。

また、重連運転とは別に貴婦人を先頭に、ポニーが車輛編成の最後尾に接続される「プッシュプル（前引き後押し）運転」もあり、こうした通常とは違うSLの姿を見て楽しむこともできます。

重連運転をしている姿、よく見ると2機のSLからそれぞれ煙が立ち上がっています。(写真左と中央付近) 2機分の動力を活かした力強い走りが魅力です。



プッシュプル運転をしているSL。貴婦人が先頭で青い旅客を引っ張り（プル）ながらポニーが最後尾から押している（プッシュ）形で走らせている。

【SL「やまぐち」号の運行・料金・空席情報についてのお問い合わせ】お客様センター ☎ 0570-00-2486

多くの鉄道ファンを生み出し、引きつける

## SLの魅力

普段は見られないSLの裏側も紹介しています。

津和野今昔館 岡村幸範



写真展「遙かなる時を越え75年」は11月23日まで開催中。ぜひお見逃しなく!

木曜日は休館しています。

### 写真展を開催中

町田にある津和野今昔館では、C57 1号機製造75周年を記念してSLややまぐち地域振興会の主催により「遙かなる時を越え75年」と題したSLの写真展を開催しています。

館内に所狭しと展示されているSLの写真は、山口を中心に活動をしているSLややまぐち地域振興会が中心となり、これまで全国の鉄道ファンが撮りためてきたものを展示したものです。時代を感じさせるモノクロ写真や日本の四季の中のSLを切り取った写真、また普段は見ることのできない車輛の点検・整備の写真などもありその魅力を感じることがができます。

また、車輛整備の裏側を紹介したドキュメンタリーの上映やSL「やまぐち」号のスタンプラリーも開催されています。料金は大人300円小中高生100円、受付でSL「やまぐち」号乗車証を提示すると50円の割引とSL乗車記念品を贈呈しています。この機会にSLの魅力の一端にふれてみてはいかがでしょうか。



かつて山口線を走っていたD51形と現役のC56形の動輪の大きさは直径1m40cm、C57形の直径は1m75cm。重量は機関車だけで約115t、客車も合すると約300トン蒸気力だけで動かしているのです。



1回の往復で使用される石炭の量はおよそ2トン。私達を乗せて走り始めるまで運行の前日から様々な準備が行われています。



## SL の魅力を一人でも多くの人に知って欲しい

SL やまぐち地域振興会 よしなが たかひろ 吉永 昂弘

オススメ撮影スポットは、名賀地区の白井トンネル付近。「撮影の時には、地元の方に声をかけるなどしながら楽しんで欲しい。」とのこと。

現在、約10名のメンバーと関係機関や地域の方から成るサポートスタッフでSLを活用した地域おこしに取り組んでいるSLやまぐち地域振興会。その会長を務めるのが自身も大のSL好きでありプロの写真家でもある吉永昂弘さんです。その彼が会長を務める同振興会では、関係者や地域の方と協力をしながらSLの魅力により多くの人に知ってもらおうと様々なイベント等に関わっています。小学生のころに初めてSLに出会った吉永さんは、その魅力の虜となり、全国の様々なSLの写真撮影しているそうです。その中でも山口線は沿線の豊かな田園地域と、周囲を取り囲む山岳の風景といった自然環境の中を迫力あるSLが走る姿が魅力だと話してくれました。

これまで撮りためたSL「やまぐち」号の写真は数万枚になるそうですが、「常にもっとSLの魅力が伝わるより良い一枚を目指しながら撮影を続けたい。また、振興会としても地域の方、関係者の方、SLファンの方に愛されるような活動を続けていきたい。」とその目標を話してくれました。



## 安心・安全を第一にSLを楽しんでもらいたい。

JR 西日本 山口地域鉄道部山口乗務員センター さかざき かつみ 坂崎 勝美

SLの運行操作は手動、そのため車輛の動く音などを聞きながら適切な機器を操作しないとスムーズな運行はできません。腕と経験が問われます。

現在、SLやまぐち号の機関士の中では、指導的な立場で後輩の育成を行っている坂崎さん。本格的にSLに携わり始めたのは、平成13年からで、「まさか自分がSLに関わるとは思っていなかった。」と当時を振り返りながら話してくれました。

いわゆる旅客輸送に用いるSL以外の車輛はコンピュータの導入により自動化が進んでいます。それに比べSLはその全てが手動操作。そのため「機関士の操縦技術が問われる。長い坂道の多い山口線で空転（空回り）させずに蒸気を効率よく使って走ることができると、いかに客車を揺らさないよう運転するか、機関士の腕の見せどころですね。SLに関わり始めてから「こんなに面白いモノはない」と思うようになりましたよ。」と普段わたし達には見えない乗務員の方の姿を話してくれました。

自身が中学生のころに運行していたSLの廃止と復活を見ており「無くなったときは寂しかったけどまたこうしてSLに関われるのは素直に嬉しい。これからは安心・安全を守りながらSLの運行を支えていくので、沢山の人にSLの魅力を知ってほしい。」と話してくれました。

## いまからでも楽しめる! SL 関連イベントが発車しまーす

### 津和野今昔館で記念展開催中

今昔館では、今年で製造から75周年を迎えたC571号機を記念して「遙かなる時を越え75年」と題した記念展を11月23日まで開催しています。

普段は見ることのできないSLの写真が多数展示されています。また、SLを特集した特別映像の上映も行っています。

【問】津和野今昔館 ☎ 72-3278  
SL やまぐち地域振興会・事務局 (吉永) ☎ 080-4553-9521



### 今年もありますスタンプラリー


毎年大好評のSL「やまぐち」号スタンプラリーが今年も開催中。山口から津和野までの各観光スポットに設置してあるスタンプを集めて応募すれば豪華景品をプレゼント。


応募は11月30日までとなっていますので、夏休み期間中のお子さまとチャレンジしてみたいかがでしょうか


【問】山口線SL運行対策協議会 ☎ 083-933-3170



### ほかにも様々なイベントが目白押し!

 沿線PRデー (9月中旬)  
山口線が走る地域で集まり特産品の配布などを予定しています。

 鉄道の日・記念イベント (10月14日)  
10月14日の鉄道の日を記念したイベント。SLとの記念撮影などが楽しめます

 クリスマス特別運行(12月下旬)  
クリスマス用に飾られたSLで冬の山口線をひた走る。乗車するとサンタクロースにあえるかも

 元旦特別運行 (翌年1月)  
初詣で太鼓谷稲成神社へ行くならSLで決まり!津和野駅では、歓迎イベントも計画中。

イベントの日程・内容等は変更になる場合もあります。詳しくは下記へお問合せください。

【問】山口線SL運行対策協議会 (☎ 083-933-3170)

WEBでも情報発信中! SL「やまぐち」号「貴婦人」に乗りこんで2時間のレトロ旅に出かけよう (URL: <http://www.c571.jp/>)